

複数施設研究用

【情報公開文書】

核医学を用いた橋梗塞での脳血流評価の検討

1. 研究の対象

2003 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日に秋田大学医学部附属病院または秋田県立循環器・脳脊髄センターで脳疾患に対して N-isopropyl-(¹²³I)-p-iodoamphetamine (¹²³I-IMP) single photon emission computed tomography (SPECT) などの脳血流 SPECT を受けられた 0 歳以上 100 歳未満の方

2. 研究目的・方法

本研究は、橋梗塞を起こした患者さんで、小脳の血流にどのような変化が起こるのかを調べることを目的としています。橋は脳の中で神経の通り道となる重要な部分であり、ここに梗塞が起こると、離れた場所にある小脳の働きにも影響が及ぶ可能性があります。しかし、どちら側の小脳にどのような影響が出るのかは、まだはっきり分かっていません。そこで本研究では、橋梗塞が確認された患者さんと橋梗塞のない患者さんでの SPECT 検査画像を比較し、小脳の血流の違いを調べます。なお、この研究では、MRI にて拡散強調像や T2 強調像で橋に高信号を認める患者を橋梗塞患者さん、橋梗塞がなく他の脳疾患がある患者さんを橋梗塞のない患者さんとしします。この研究により、橋梗塞が脳全体の働きに与える影響をより詳しく理解し、今後の診断や治療に役立てることを目指しています。

研究実施期間：研究実施許可日～西暦 2036 年 3 月 31 日

情報の利用及び提供開始予定日：2026 年 7 月 17 日

3. 研究に用いる情報の種類

情報：年齢、性別、診断名、経過、MRI、CT、核医学検査の画像や解析結果

4. 外部への情報の提供

情報は個人が特定できないよう氏名等を削除し、外部記録媒体にデータを記録し秋田県立循環器・脳脊髄センターから秋田大学医学部附属病院へ提供します。

対照表は、当院の秋田大学の研究代表者が保管・管理します。

5. 研究組織

秋田大学医学部附属病院 放射線科 今野素子（研究代表者）

秋田県立循環器・脳脊髄センター 放射線科 木下 俊文

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究代表者：

住所：秋田市本道 1-1-1 放射線科医局

電話番号：018-884-6179

研究機関名：秋田大学医学部附属病院

所属：放射線科

職名：助教

氏名：今野素子

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称：

国立大学法人秋田大学大学院医学系研究科

研究科長 宮腰 尚久